



いしかわ多胎ネット ニュース・レター

No.1 2007年2月



ニュース・レター発刊に寄せて



「いしかわ多胎ネット」が発足して、早いもので、もうすぐ二年になろうとしています。この間、地域ネットとしては「ひょうご多胎ネット」と「ぎふ多胎ネット」が立ち上がり、更には「多胎育児サポート・ネットワーク」の「独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金 多胎育児支援地域ネットワーク構築事業助成事業」が展開するなど、多胎育児支援の輪は確実に広がってまいりました。そうした中、ここ石川の地でさまざまな形で多胎育児に関わっている方々が、それぞれの立場から「いしかわ多胎ネット」により強い関心を持ち、今まで以上に連携を強め、多胎育児支援の（そして子育て支援全体の）実効化を図りたいという思いが高まってまいりました。

一方で「いしかわ多胎ネット」に参加・登録したけれど、実際の活動はどうなっているのか、今ひとつよく分からないという方もおられます。そこで、わたしたちが行っている活動や全国の動きなどをお伝えする必要があると考えまして、ニュース・レターを発行することにしました。不定期ではありますが、わたしたちの活動の一端、他の地域や全国の活動の報告、イベントやお役に立つ情報などを順次掲載していきますので、どうぞご期待いただけますようお願いいたします。また、ご意見やご要望もお寄せいただきますようご案内いたします。

志村 恵



ピア・サポート事業について

今、子育て支援のキーワードは「ピア・サポート」だと言われています。厚生労働省による「こども子育て応援プラン」の中でも「つどいの広場事業」「こんにちは赤ちゃん事業」（全戸訪問）を、今取り組むべき最重要課題として盛り込んでいることが、その必要性を表しています。地域のかかわりや親自身の育ってきた背景の変化による現代の子育て状況を考えても、これまで通りの行政施策・施設に頼る支援だけでは育児中の不安感・困難感をのりこえられない。「行政サービス」で育児力はエンパワーメントされません。特に母子保健分野に関わりの深い多胎育児においては、保健師・助産師など専門職の指導とは異なる「ピアな立場」つまり同じ多胎育児経験者による手助けが不可欠です。ピアサポーターに必要なのは資格でも指導でもなく、出会う機会を大切にし、さりげなく近くにいて耳を傾け、同じ気持ちで一緒に考えること。今年度ご協力いただいたニーズ調査を生かして、これまでの経験や活動を制度や事業に反映して行けるよう、全国の多胎ネットとともに前進しています。どうぞご期待いただき、そしてご参加くださいね！

橘 薫

不妊治療と多胎に関する勉強会の報告

Pキッズクラブ 玄田朋恵

場所：名古屋第二赤十字病院会議室

日時：2006年12月2日（土曜日）10時から12時

発表：加藤佳代子さん（名古屋第二赤十字病院不妊治療認定看護師）

「当院での多胎育児サポートの取り組み」

坂上明子さん（愛知医科大学看護学部助教授）

「不妊治療と多胎妊娠」

名古屋第二赤十字病院での多胎分娩数の増加に伴い、昨年度から多胎育児に病棟あげて取り組んでこられたそうです。とても嬉しいお話でした。特に工夫されているな一と感心した点は、次の3点です。

①**クリニカルパス**を作って、使用している。（当日資料より）

＜パスの種類＞

- ・二児とも産科病棟の場合
- ・一児はNICU、一児は産科病棟の場合
- ・二児ともNICUの場合

＜パスの使用＞

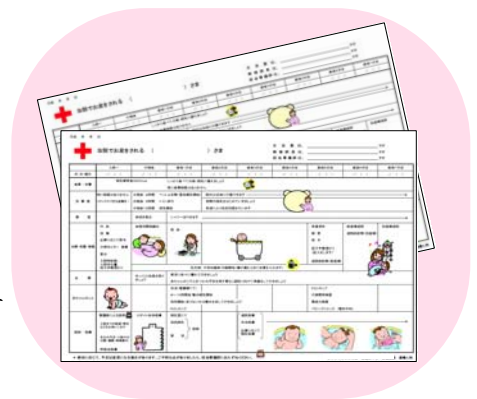
- ・ベッドサイドに置く
- ・受け持ち看護師が毎日母親と共に育児行動を見直す
- ・受け持ち看護師がアウトカムの評価を行う
- ・バリエーションが生じた場合は看護計画を立案する

＜クリニカルパスの利点＞

- ・育児行動が明確化され、母親とスタッフが目標を共有化できるようになった
- ・母親にとって参加型の看護が展開されるのではないかと考える
- ・バリエーションが生じた際は早期にケアの修正を図り、個別性を踏まえた看護計画の立案
- ・スタッフ間において、多胎育児サポートの必要性の意識が高まった

②妊婦さんがベッドに少しでも楽に休めるように、穴あきベッド（クリニフロートをすり鉢状にくりぬき、けずった物）を使用している。

③多胎の場合は、単胎より二日長い入院にしている。（体力の低下を考え、親子で一泊二日同室で過ごし、育児を経験させてから退院させている。）



【感想】

私も第一子の時、少しですが、不妊治療の経験をしました。けれども、サークルの中で不妊治療をされた方から聞く話はさまざまでした。少しでもそうした気持ちにより添えないかとの思いがずっとあり、研修会に参加しましたが、私が考えていた以上に不妊治療をされた方の傷つき方は大きく、胸が痛みました。世の中の人にそのデリケートな気持ちを温かく見守って頂けるよう、私たち「いしかわ多胎ネット」としても考えていかななくてはならないと思います。また、不妊治療を夫婦で始めようと思ったら、多胎についてもよく話し合うべきでしょう。もし、多胎だった場合は妊娠中から夫婦や家族の話し合いを何度かされて、「夫婦二人で一緒に育てる」気持ちを育てていくことが重要だと感じました。

多胎の方の中には、不妊治療をされたのに、離婚されている方がいると聞きます。妊娠中からの多胎の「プレパパ・ママ教室」を開催する、パパに育児協力者としての気持ちを早い段階から持って頂くなどの工夫が必要だと切に思いました。中学生のワクワク体験など、学生のときから乳幼児と接する機会を持たせていくことも考えていくべき課題ではないでしょうか。

加賀地区 講演会・交流会・食事会（2006年11月25日）の報告

山岸和美・河原広子

「冬の育児ストレスは、これで解消しよう。皆でゆったりのおんびりリラクゼーション」と題して、メンタルセラピストの山崎栄子氏を講師に迎え、南加賀保健福祉センターで開催しました。

家庭でも簡単にできるストレッチで身体をほぐしたり、音楽を聴きながらのリラクゼーションを体感しました。



身も心もほぐれたところで、子どもの年齢別グループに分かれ、他の多胎家族と交流。日頃の育児の楽しみや悩みを分かちあうことができました。

妊婦さんの参加もあり、先輩ママの生の声を聞き、実際の育児用品を手にとり、双子育児のイメージを膨らませていました。

講演会・交流会終了後の食事会には就園・就学児のお母さんたちも集まり、交流を深めることができました。



総会のご案内 2007年5月13日

いしかわ多胎ネットの総会を行います。当日は、東好美さん（中学校教員）を講師にお迎えし、「二組のふたごを育てて — 学齢期と思春期のふたご —」と題して講演会も開催します。

日時：2007年5月13日（日）午後1時半から

場所：石川県立生涯学習センター 22号室（金沢市広坂）

託児もありますので、皆様ぜひお越し下さい。



● インターネットの紹介 ●

① Twins & Super Twins Mailing List Japan

(ツインズ&スーパーツインズメーリングリストジャパン)
 充実した内容と、迅速に情報を得られるのが嬉しいホームページ。
 リストメンバーになると全国からの情報が得られます。
 のぞいてみるだけでも楽しい。
 ホームページ <http://www.twins.gr.jp/>

② 多胎育児サポートネットワーク

多胎児を産み育てる家族が安心して楽しく育児できるようサポート
 している会員制による任意団体です。育児支援についての情報が得
 られます。現在、多胎育児支援地域ネットワーク構築事業に取り組
 んでいます。いしかわ多胎ネットも協力しています。
 ホームページ <http://www.tatai-ikuji.jp/>

③ いしかわ子育て支援財団

いつでも必要なときに育児情報が得られるようになっています。
 電子メール、ファックス、手紙などによる育児相談も行っています。
 子育てに関して自由に意見交換できる「子育て伝言板」も開設。
 ホームページ <http://www.i-oyacom.net/main.html>
 Eメール info@i-oyacom.net
 TEL : 076-262-1530 FAX : 076-262-1540

● 県内多胎サークルの紹介 ●

ぷちっこ (河北郡)	ニコニコくらぶ (かほく市)
チェリー (金沢市)	ぐりとぐら (金沢市)
にこにこ (金沢市)	多胎児サークル風っ子 KIDS (金沢市)
多胎児支援グループ風 (金沢市)	ミントクラブ (金沢市)
ピーナッツキッズクラブ (小松市)	ほっとらんど (白山市)
てんぽなキッズ (加賀市)	

● その他の育児支援サークルの紹介 ●

子育て生活応援団 (金沢市)

NPO 法人かもママ (加賀市)

いしかわ多胎ネット お問い合わせ先

志村 恵 (電話・FAX 連絡)
 〒920-1192 石川県金沢市角間町
 金沢大学文学部
 Tel : 076-264-5345 Fax : 076-264-5362
 E-mail : megumi@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

大木 秀一 (郵便物)
 〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ 7 番 1
 石川県立看護大学健康科学講座
 Tel / Fax : 076-281-8377
 E-mail : sooki@ishikawa-nu.ac.jp